

玉川教会たより

NO. 485

2016年9月18日

町田市玉川学園4-5-32

TEL. 042-732-9321

FAX. 042-732-9337

Eメール chiyosi514@yahoo.co.jp

『驚のように翼を張って』

▼イザヤ40：27～31

▼生きることに疲れてしまう人がいます。深刻なことです。生きる力がなくなってしまうのです。それは、若者にも起こるし、勇士と見られていた人にも起こります。

人間が、自分の力、人間の力を頼りにして生きることには限界が存在します。いつかは、力尽きます。

草臥れ果て、いつかは滅んで行くのです。

しかし、『主に望みをおく人は新たな力を得／驚のように翼を張って上る』

そこから、もう一度立ち上がる事が出来るのです。自分の力ではありません。自分の力ではなく、『主に望みをおく』ことで、力を得るのです。自分の力ではなく、主の力なのです。

▼人間が、自分の力、人間の力を頼りにして生きることには限界が存在します。いつかは、力尽きます。草臥れ果て、いつかは、滅んで行きます。

そのことを、思い知らされた者だけが、そこから、もう一度立ち上がる事が出来るのです。自分の力ではありません。自分の力ではなく、『主に望みをおく』ことで、力を得るのです。自分の力ではなく、主の力なのです。

▼イザヤのこの預言は、主イエスキリストの十字架によって、より、徹底した形で、成就します。つまり、『走っても弱ることなく、歩いても疲れない』ではなくて、弱ってしまった者が、倒れてしまった者も、『主に望みをおく』ことの出来なかった者も、主の恵みによって、主の力によって、自分の翼ではなく、主の翼によって、『驚のように翼を張ることが出来るのです。』

▼インマヌエルの神は、弱ってしまった者と、倒れてしまった者と、『主に望みをおく』ことの出来なくなった者とも、共に居て下さるのです。

主の十字架を見捨てて行った、或いは裏切って行った、弟子達と共に居て下さる神なのです。インマヌエルの神は、弱ってしまった者と、倒れてしまった者と、『主に望みをおく』ことの出来なくなった者をも、その御翼の陰に置いて下さるのです。

それは、私の単なる願望ではありません。

イザヤ書46章3～4節。これは、葬儀の関連でしばしば読む箇所です。

『わたしに聞け、ヤコブの家よ／イスラエルの家の残りの者よ、共に。

あなたたちは生まれた時から負われ／胎を出した時から担われてきた。

4:同じように、わたしはあなたたちの老いる日まで／白髪になるまで、

背負って行こう。わたしはあなたたちを造った。

わたしが担い、背負い、救い出す』



▼人間の救いの根拠は、一人ひとりの人間の中に存在するものではありません。神の中に存在するのです。『わたしはあなたたちを造った。わたしが担い、背負い、救い出す』神が一人ひとりの人間を作られた、ここにだけ、救いの根拠が存在するのです。